



いにしえに思いをはせて

4月29日(火)、築館地区城生野で『これはりの里』歴遊ロマンウォークが開催されました。

この催しは、富野地域づくり協議会が主催したもので、富野地域内の歴史的な場所をガイドから説明を受けながら散策するものです。

当日は、古墳時代前期後半の大規模集落跡「入の沢遺跡」や「伊治城政庁跡」などを含む約4キロメートルの道のりをガイドが丁寧に紹介しながら歩き、参加した約30人は史跡の持つ役割やその歴史に思いをはせていました。



当日は、古墳時代前期後半の大規模集落跡「入の沢遺跡」や「伊治城政庁跡」などを含む約4キロメートルの道のりをガイドが丁寧に紹介しながら歩き、参加した約30人は史跡の持つ役割やその歴史に思いをはせていました。



各地区の催しを、毎月5地区ずつ紹介します。取材を希望する場合は、催しを開催する2カ月前までに、市政情報課(☎22-1126)へ連絡してください。

商店街を個々の視点で表現

5月10日(土)、「六日町ドキュメンタリー組 上映会とトークショー」がみちのく風土館を会場に開催されました。この催しは、栗駒地区の六日町通り商店街と東京都杉並区の高円寺・本の街 商店会との姉妹商店街構想の一環として企画されたものです。

当日は、映像作家の辻村健太さんと共に商店街に関わる人たちが、今年1月から制作を進めてきたドキュメンタリー



ドキュメンタリー動画の発表とトークショーを行い、来場した約50人が、制作者の感性が光る作品に引き込まれていました。

瀬峰地区の藤が満開迎える

瀬峰地区の五輪堂山公園では、藤の花が見頃を迎え、公園を訪れた人たちの目を和ませました。

市内の藤の鑑賞スポットとして知られる同公園では、園内にある藤棚に白色や薄紫色の藤の花が咲き誇り、周囲には、ほのかに甘い香りが広がりました。また、5月11日(日)、藤の開花に合わせて開催された「栗原せみね藤まつり」では、公園内のス



ステージで、カラオケ大会や歌謡ショー、フラダンスなどが行われ、集まった観客から、たくさんの拍手が送られていました。

今年も若柳朝市始まる

5月3日(土)、今年初となる「若柳朝市」が若柳ドリーム・パル駐車場を会場に開催されました。

この朝市は、例年、5月から6月と、8月のお盆に開催されており、地域の暮らしや賑わいを支える朝市として、これまで親しまれてきました。

当日は、野菜や花苗の他、総菜やパン、乾物などの海産品、日用雑貨などを販売する約20店舗が出



店し、早朝から多くの人々が詰め掛けました。

6月も若柳朝市は毎週土曜日、午前6時から同会場で開催されます。

連休で細倉マインパーク活況

5月4日(日)と5日(月)、細倉マインパークで「GW春まつり」を開催しました。

祭りでは、屋外ステージ上で、バトントワリングやマジックショー、キッズダンス、光源クリハラライザーショーなどを披露し、来場した子どもたちの歓声と笑顔が会場にあふれました。また、来場者と「ねじりほんによ」や「マイン坊や」によるじゃんけん大会では、景品を懸けた勝負に会場全体が盛り上がり、帰省中の家族などが、連休の楽しいひと時を過ごしました。



じゃんけん大会では、景品を懸けた勝負に会場全体が盛り上がり、帰省中の家族などが、連休の楽しいひと時を過ごしました。



▲車両を飾った絵画展最優秀作品と作者の三田果歩さん
くりでん乗車会で連休を満喫

5月4日(日)と5日(月)の2日間、くりはら田園鉄道公園で「2025GWこどもまつり」が開催されました。

当日は、昨年度開催された、くりでん絵画展の最優秀賞などに輝いた作品が、乗車体験で使用する車両のヘッドマークプレートを飾り、イベントを盛り上げました。また、運行当時、車両整備に使用した工作機械のデモ運転や昔懐かしいボンネットバスの乗車会も行われ、たくさんの家族連れでにぎわいました。



さいとう 齋藤 ツトリさん(栗駒八日町)
一生懸命に畑仕事に励み、家族を支えました。長寿の秘訣は、積極的に体を動かし行動をすることと語られました。

長寿100歳 おめでとう ございます

大正、昭和、平成、令和。激動の4つの時代を駆け抜け、思いを紡いで1世紀。

100歳の誕生日を迎えた3人を紹介します。



みやうち 宮内 ハルミさん(瀬峰野沢)
家業の農業を手伝い、4人の子どもを育て上げました。テレビ鑑賞が趣味で、特にお笑い番組を楽しみにしています。



こんどう 近藤 はるよさん(金成梨崎下沢辺)
野菜や花づくりを楽しみにしながら、6人の子どもを育て上げました。好物の甘い物を楽しみながら過ごしています。



▲佐藤市長から委嘱される松本さん
地域おこし協力隊に委嘱

5月1日(木)、栗原市地域おこし協力隊として、栗原市観光物産推進業務に従事する松本真さんに、委嘱状を交付しました。

この業務は、市観光物産協会を拠点に市の観光振興と地域資源を生かした物産振興、SNSを活用した情報発信などに取り組むものです。

これまでシステムエンジニアとして首都圏で活躍してきた松本さんは「これまでの経験を生かし、観光分野でデジタル技術なども活用しながら貢献していきたい」と意気込みを語りました。



迫力のごう音が観客を圧倒

5月5日(月)、300年以上続く伝統行事の「花山鉄砲まつり」が旧花山中学校校庭などを会場に開催されました。

この祭りは、江戸時代にこの地を治めた領主の奥方が、病弱な幼君の健康を領内の神社に祈願したところ御利益が表れ、鉄砲組に礼砲を打たせたのが起源とされています。

当日は、鉄砲組12人が陣形を変えながら、火縄銃の発砲演武を披露すると、約2,500人の観客から、歓声と拍手が送られました。